

文化

素の自分を克明に表現

音楽のネット配信の普及でCDの売り上げが落ち込む一方、音楽DVDの市場が拡大している。ついにはCDにDVDを付けるのではなく、DVDにCDが付いたBOXが9日に登場する。このユニークな作品をリリースするシンガー・ソングライターの長渕剛は、インタビュアーに対し、「素の自分が克明に表現されたドキュメンタリー映像がメインになっている」と語る。

(竹中文)

このBOXは、昨年1年間にわたって長渕に密着した映像とコンサートツアーの模様を収録したDVD3枚組に、CD3枚組などが付いた「30th Anniversary BOX PREMIUM」。長渕のデビュー30周年を記念して制作されたもので、肉体的作りのために自炊やトレーニングをしたり、風呂につかりながら本音を語るシーンなど、プライベートな映像も盛り込まれている。

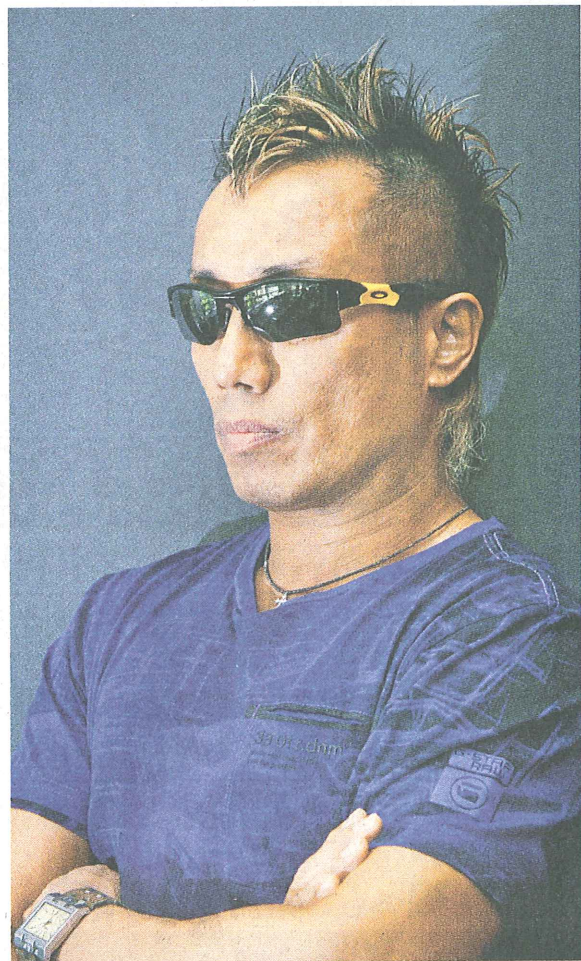
音楽界のカリスマが素顔を見せることについて、躊躇はなかったのか。「ずっと続けてきたことだから」と話す長渕は「まねできるものなら、してみようと思ったりもして(笑)。今の自分を厳しく追い込むシーンがたくさんあるんだけど、つまりそれが僕の日常なんです」と言う。

近年、ブルーレイディスクやDVDの映像ソフト市場が拡大している。市場調査会社「オリコン」によると、平成21年の映像ソフト

長渕剛 30周年でCD付きDVD

の売り上げは前年比6・4%増の2737億円。ジャンル別にみると、音楽DVDがDVD市場を支えており、「邦楽」は21・4%と「アニメ・特撮」の25・1%に次いで2番目に多い。作品別売上金額でも、音楽DVDが上位10作品のうち8作品を占めている。

そんな中に登場した長渕のDVD。企画の意図について、長渕は「ドキュメンタリー映像には、30年の積み重ねの上にある今の僕が描かれていて、それはファンが作ったと言っても過言ではない。だから、おれたちが作ってきたものを、メーンに記録しておきたかった」と語る。ライブを収録したCDを付けたのは「耳だけの世界だけで想像しながらライブの臨場感を味わう。そういうものは残して



映像カメラマンには「始終、撮りまくれと言った」と長渕剛 (瀧誠四郎撮影)

おこうと入れたんですよ」という。

リハーサルにもカメラが入った。DVDには、長渕がバンドのメンバーやスタッフに気合を入れるシーンもある。「メンバーに望むことは厳しいと思いますね。どんなアクシデントが起きても平然と突き抜けていくための練習をする必要がある。わざと間違えて、『次、どうするんだ』と言う。それをやっておかないとファンのエネルギーには勝てないんです」

長渕の熱い思いに、ファンも応える。舞台上の長渕があおると、ファンはパワフルに天井に向かってごぶしを突き上げる。

「老若男女のパワーは怖いんです。自分が若かったときには、ファンは10代が多かった。薄い層ではなくなってきたので、ただ盛り上がるだけでも駄目。普遍的な歌や動きでのショーの成立を考えています」と言いながら、今後の活動について、こんな言葉で締めくくれた。

「クリエーティブな活動をとにかく続けます。音楽活動だけでなく、場合によっては映像の世界になるかもしれない」

昨年12月9日に行われたライブでの長渕剛(東京・NHKホール)



(吉田武撮影)